公益社団法人日本ライフル射撃協会
２０２２年度第４回理事会議事録

日時：２０２２年１２月３日（土）　１３：３０～１６：４０
場所：　ジャパンスポーツオリンピックスクエア会議室３及びオンライン会議（Ｚｏｏｍ）
出席者（＊　テレビ会議による出席）
理事：総数２７名中
松丸喜一郎会長　*田村恒彦副会長　袴田登喜造副会長兼専務理事　*横山幸子副会長　*永谷喜一郎常務理事　*大野明敏常務理事　三木容子常務理事　平井宏治常務理事　*佐橋朋木常務理事　*近藤正晃ジェームス常務理事　*小風明常務理事　*成山悟史理事　*田口亜希理事　*松島愛理事　*上之園正一理事　*酒寄貴瀬理事　穂苅美奈子理事　*寺澤良悦理事　*田中僚一郎理事　*尾﨑和郎理事　髙橋信吾理事　*山下晃弘理事　*仲本渚理事　*五十嵐治人理事　*田中辰美理事
以上出席２３名（近藤常務理事と松島理事が後に参加し、合計２５名）
監事：総数２名中　*香西俊輔監事　岸高清監事　以上出席２名
議事録署名人：松丸会長、田村副会長、袴田副会長兼専務理事、横山副会長、
香西監事、岸高監事

袴田専務理事が１３時３０分に理事２３名出席で成立するとの宣言をした。
議長：代表理事　松丸喜一郎

事務局が、オンライン会議システムにより、出席者の音声が即時に双方向に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認して議案の審議に入った。

1　会長あいさつ
ISSF 総会より昨夜（１２月２日）帰国した。射撃の将来にかかわる会長選が行われ、僅差でロッシ新会長が誕生した。私（松丸会長）は、Executive Committee Member（常務理事に相当）に選出され、１回目の Executive Committee Meeting(常務理事会)に出席した。新体制には現場の運営を立て直す事が期待できるが、内側の人間が居心地の良い場を作って留まっていてはならない。射撃がオリンピック競技に残るかどうかは射撃の外にいる一般の人たちが決める事であり、IOC は常にモニタリングしている。存在意義を社会に認めてもらえる発信を事業化していく必要があることは、国際も日本も同じ状況にある。

＜審議事項＞
2　総務委員会　　審議事項なし
3　推薦委員会　　審議事項なし
4　国体委員会　　審議事項なし
5　選手強化委員会
5.1　２０２２年度強化指定選手選考基準及び海外派遣要綱　追加変更（画面共有）
委員長が資料「5.1 2022 年度 強化指定選手選考基準及び海外派遣選手選考要綱」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。
<u>質疑応答</u>
ボパール大会は、各種目３名となっている。最上位は１名、自己負担は２名の理解で正しいか。（松丸会長）→その通りである。（佐橋委員長）
5.2　２０２３年ワールドカップバクー大会派遣に関して
委員長が資料「5.2 ２０２３年ワールドカップバクー大会派遣に関して」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、訂正を反映した内容で理事会によって承認された。
<u>訂正</u>
３月全日本選手権は混合のファイナルのため、男女本選優勝者を派遣する。

5.3　２０２２年度 選手強化事業計画変更追加（画面共有）
委員長が資料「5.3 ２０２２年度 選手強化事業計画変更追加」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。
補足説明
追加の試合にも出場させてほしい、もっと合宿をしてほしいという要望がコーチより拡大強化本部選手強化委員会合同会議の場であった。JOC から 12 月中に追加配分の決定がある。基盤強化事業の活用により、当初予算より（一般財源に）余裕が出てきた。（松丸会長）
質疑応答
JOC からの追加配分がある前提なのか。（田中辰美理事）→ JOC からの追加配分は含んでいない。追加配分を申請する予定であり、追加配分があれば一般財源からの支出は軽減される（佐橋委員長）

6　競技運営委員会
6.1　2023 年度事業計画案
委員長が資料「6.1 2023 年度事業計画案」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、G1 の日程について案の通り理事会によって承認された。
補足説明
会議の日程については、参考まで。国際競技大会と調整するため。（松丸会長）
質疑応答
本日は G1 承認ということで良いか。（松丸会長）→その通り（委員長）
6.2　段級審査規定の改訂について
委員長が資料「6.2 段級審査規定の改訂について」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。
補足説明
ニチラネットに対応した記述にした。段級審査受験申請書は、加盟団体内で活用していただき、日ラへの提出は不要。（委員長）
6.3　公認審判
委員長が資料「6.3 公認審判」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り本部審判１名は理事会によって承認された。
6.4　日本記録の公認
粟生記録部会長が資料「6.4 日本記録の公認」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、訂正を反映した内容で理事会によって承認された。
訂正
10m エア・ライフル女子の新ルールのファイナルについては、ISSF、ASC 共に対象としていないことから、日本記録対象としない。

7　普及・生涯スポーツ委員会
7.1　認定コーチについて
大木指導者育成部会長が資料「7.1 認定コーチについて」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。
補足説明
報告資料としていたが、審議事項とした。赤色ハイライトは、最終課題の提出待ちのため、認定対象外とする。（大木部会長）
7.2　コーチ資格取得に係る年齢及び競技歴・指導歴要件引き下げについて
大木指導者育成部会長委員長が資料「7.2 コーチ資格取得に係る年齢及び競技歴・指導歴要件引き下げについて」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。
補足説明
大学のうちに C 級取得と指導歴を得て、社会人と同時に B 級コーチとする事を可能とした。（大木部会長）
質疑応答
D 級コーチは２２歳のままなのか。（三木常務理事）→現時点では２２歳のままとする。（大木部会長）
アスリートパスウェイの中で D 級以上のコーチを認定しようとすると、年齢で逆転している。まず D 級ではないか。（三木常務理事）→次回理事会へ向けて検討する。（大木部会長）

8　マーケティング委員会　　審議事項なし

9　コンプライアンス委員会
9.1　公益社団法人日本ライフル射撃協会倫理委員会規程制定の件
委員長が資料「9.1 公益社団法人日本ライフル射撃協会倫理委員会規程制定の件」に基づいて説明し、議長が理事会に諮り、訂正を反映した内容で理事会によって承認された。
訂正
「本協会機関**紙**」は、「本協会機関**誌**」に訂正する。
質疑応答
加盟団体で除名された者については、別の加盟団体で再登録する事を防止している。もう１回上がってきたら事務局で管理しておく必要がある。（岸高監事）→事務局で情報として把握する。ただし、公表としては仮名にする。（委員長）

＜報告事項＞
10　会長報告
10.1 将来構想事業について
- 今年度ふるさと納税寄付の状況報告（当日画面共有）
  会長が資料「今年度ふるさと納税寄付の状況報告」に基づいて説明した。
  補足説明
  年内に納付必要があり、12 月 15 日目安なので時間が限られている。ぜひお願いしたい。
- 競技会の共生化について（資料は 15.2 全日本福井（３月）の件）
  会長が資料「15.2 全日本福井（３月）の件」に基づいて説明した。
- 今後のデジタル化推進について（口頭）
  会長が口頭にて説明した。
  競技会の出役履歴などの審判員に関する情報の管理などのデジタル化をすすめる。助成金が得られればプラットフォームもモダナイズする。
- 体験射撃会の開催報告（当日画面共有）
  会長及び粟生普及・生涯スポーツ委員会普及部会長が資料「体験射撃会の開催報告」に基づいて説明した。
  補足説明
  参加者は、オリンピアン、パラリンピアンの出役を喜んでいる。実施の鍵は、指導員である。東京都ライフル射撃協会を筆頭に出役していただき、好評を得ている。次の課題は、どのように今後の射撃につなげるか。（粟生部会長）
  JRSF 認定コーチにも出役していただき、東京都ライフル射撃協会の指導員の方達から学んでいただきたい。（松丸会長）
- 医科学的効用研究について（口頭）
  会長が口頭にて医科学的効用研究の進捗を説明した。
  枝川医科学部会長の関係で脳科学専門の先生等と協議し、今年度はどういう研究を行うかを定める。

10.2 ISSF 選挙結果報告（当日画面共有）

会長挨拶にて報告済み。

10.3 アジアエアガン出役報告（口頭）
松丸会長が ASC を代表してアジアエアガンに出役した事を報告した。

11 総務委員会報告
11.1 中間決算報告
袴田専務理事が資料「11.1 中間決算報告」に基づいて説明した。
11.2 規定集見直し進捗報告（当日画面共有）
袴田専務理事が資料「11.2 規定集見直し進捗報告」に基づいて、見直し作業はほぼ完了したと説明をした。
補足説明
規則集の発行をやめたので、ホームページから基本的に全ての規定が閲覧できるようにする。その際、従来掲載されていなかったものも必要を検討して掲載する。尚、速やかに掲示したいので現行 HP に掲示を行う。（松丸会長）
11.3 HP リニューアル進捗報告（口頭）
藤井彌事務局長が口頭にて、HP リニューアル進捗報告を行なった。予算で作成したのは雛形に基づいたホームページの設定作業であるため、移行を事務局で行う必要がある。移行作業は大きく、移行は年度内に行う。
11.4 くじ助成関連の申請予定事業　モダナイズ部会（当日画面共有）
谷川モダナイズ部会長が資料「11.4 くじ助成関連の申請予定事業　モダナイズ部会」に基づいて、基幹システムの刷新をくじ助成事業として申請する事を報告した。
11.5 くじ助成関連の申請予定事業　広報部会（当日画面共有）
門間広報部会長が口頭にて、射撃を知らない人への発信を増やしていく事を目的とした広報事業として、外部の編集チームを活用した事業をくじ助成事業として申請する事を報告した。

12 推薦委員会報告
12.1 審査結果報告
大野委員長が資料「12.1 推薦結果報告」に基づいて説明した。
12.2 警察庁との協議報告
松丸会長と大野委員長が警察庁を１１月に訪問し、次の内容について協議した。

- ライフル講習の技能講習免除推薦の大会参加要件を「年２回」のみに変更する事を協会から警察庁へ申し入れた。警察庁からは、１月中回答予定。
- 初心者講習会や年少射撃資格講習の開催頻度が少なくて困っている事について協会から警察庁へ伝えた。事例があれば善処するので報告するよう警察庁より求められた。
- 低年者（１４―１７）歳の空気拳銃は、保管業者に預けなければならないことになっているが、銃刀法の保管業の規定で、預かることが出来る銃は猟銃と空気銃になっている。多くの県警においては空気拳銃の保管の許可が出ていない。明確に法律に空気拳銃の保管も入れるよう本協会から警察庁へ要望した。警察庁からは、次回の法改正時に入れる準備を進めているとの回答を得た。
- ナショナルトレーニングセンターにおいて実施した関東管区警察局の研修会について、今後も行なっていくことを松丸会長から警察庁へ提案した。

質疑応答
猟銃等講習会がとにかく受けられない。開催回数を増やす申し入れは出来ないか。（永谷常務理事）
→以前、警視庁、大阪府警において猟銃等講習会が少ない事を受けて申し入れをした。具体的な実例があれば申し入れをする。（松丸会長）

13 国体委員会報告
13.1 栃木国体終了報告
平井委員長が資料「13.1 栃木国体終了報告」に基づいて説明した。3 年ぶりに国体を開催し、大きな問題はなく、終了できた。
13.2 鹿児島特別国体 K カードおよび大会要項について
平井委員長が資料「13.2 鹿児島特別国体 K カードおよび大会要項について」に基づいて説明した。

14 選手強化委員会報告
14.1 世界選手権結果報告
佐橋委員長が資料「14.1 世界選手権結果報告」に基づいて説明した。
RFP の吉岡選手の最終シリーズ８３点の原因は、タイムオーバーをしてしまったため。
14.2 アジアエアガン報告
佐橋委員長が資料「14.2 アジアエアガン報告」に基づいて説明し、女子 AR ジュニア種目における野畑選手の銅メダル獲得、女子 AP ジュニア種目における阿部選手の８位入賞を報告した。
14.3 産前産後競技復帰プログラムの開始
佐橋委員長が資料「14.3 産前産後競技復帰プログラムの開始」に基づいて説明し、利用予定者もいることを報告した。
14.4 東アジアユースエアガン派遣選手決定報告
成山副委員長（ジュニア担当）が資料「14.4 東アジアユースエアガン派遣選手決定報告」に基づいて説明し、14.9 の報告もあわせて行なった。
14.5 2023 年度のアスリートパスウェイの考え方（口頭）
14.6 2023QP 獲得年の海外派遣の基本方針（口頭）
14.7 2022 年度下半期 2023 年度上期の強化方針（口頭）
佐橋委員長が 14.5 から 14.7 をまとめて口頭にて報告し、ノービス、カデット、ユース、ジュニア、トップ選手まで連携してコーチが指導出来る体制を作っていく事を報告した。
14.8 くじ助成関連の申請予定事業（当日画面共有）
佐橋委員長が資料「14.8 くじ助成関連の申請予定事業」に基づいて説明し、ドーピング検査も申請事業として追加すると報告した。
質疑応答
アスリートパスウェーをクジ助成とするのであればジュニア育成事業の中にどのように位置づけ役割は何かを示す必要がある。その為にはジュニア育成事業の全体像（アスリートパスウェイ TID、タレントハブ、JOC ジュニア補助事業の相互連関）を説明して欲しい。（松丸会長）→承知した。（佐橋委員長）
14.9 東アジアユースエアガン報告
14.4 において、報告済み。

15 競技運営委員会報告
15.1 TD 講習会（１２月１７日）
三木委員長が資料「15.1 TD 講習会（１２月１７日）」に基づいて開催案内をした。
15.2 全日本福井（３月）の件　　10.1 参照
15.3 公認審判手帳のモダナイズを検討中（口頭）
三木委員長が２月理事会に具体的な提案をすることを報告した。
15.4 ２０２３年度ルール改定について２月審判講習会において公表予定（口頭）
三木委員長が２月の審判講習会をオンラインで計画中しており、この時にルール改定について公表する予定であることを口頭にて報告した。
15.5 電子標的再公認

三木委員長が埼玉県長瀞射撃場の資料「15.5 電子標的再公認」に基づいて報告した。

15.6 BRBP ファイナルシステムと SIUS ランク統合の件（口頭）

三木委員長が BRBP のファイナルを SIUS ランクで表示するシステムを業者と共に準備中であり、１２月の小中学生大会でテストすると報告した。使えるようであれば、金額を含めて業者と調整する。

15.7 くじ助成関連の申請予定事業（当日画面共有）

三木委員長が以下の事業を申請する予定であると報告した。

- 競技会開催経費
- 講習会
- 審判の育成や派遣等
- 競技運営関連で出来るシステム化

補足説明

助成対象となる競技会は、主催、主管も日ラになる。従って、参加費などを含めた収入、経費共に全て日ラ管理となる。主管の団体に２０～３０万の経費補助を出してきた従来方式とは異なる。（松丸会長）

15.8 アジアエアガン出役報告　TD 藤井氏、ジュリー岡田氏（口頭）

藤井彌事務局長が、自身として本国際大会に TD として出役したこと、及び岡田亜美審判部会長がジュリーとして出役した事を報告した。

16 普及・生涯スポーツ委員会

16.1 くじ助成関連の申請予定事業　指導者育成部会（当日画面共有）

大木部会長が以下の内容を申請予定であることを報告した。

- 従来講習会等でかかっている費用
- 指導者がブロック内などで指導時にかかっている経費

16.2 くじ助成関連の申請予定事業　普及部会：射撃体験会（当日画面共有）

会長報告で説明したものを継続する。

17 マーケティング委員会報告

17.1 くじ助成関連の申請予定事業　バーチャルシリーズソフト開発

17.2 e-Sports プロジェクト及びデジタル射撃プロジェクト報告

近藤委員長が以下の内容を報告した。

- e-Sports プロジェクトについて、ゲーム会社が前向きに検討している。
- デジタル射撃プロジェクトについて、射手へのグループインタビューを完了する。

18 コンプライアンス委員会　報告事項なし

19 アスリート委員会

19.1 2021 年度アスリート委員会実施報告

松本委員長が以下の内容を報告した。

- オリンピックの後、コロナ禍で制限されたときに実施した。
- 現在 Slack を通して速やかに伝わるようになっているが、早く教えて欲しいという声はまだある。
- NTC の利用については、土日が合宿期間中以外は利用できないので利用できるようにして欲しい（学生、就労アスリートより希望）。
- 現在意見を収集しており、また委員会を開く予定。

以上各業務執行理事より職務執行の状況報告があった。

20 会務報告

藤井彌事務局長が、以下の内容を報告し、関係者の協力に感謝した。

- 藤井優名誉副会長が令和４年秋の叙勲（旭日双光章）を受賞。
- 愛知県ライフル射撃協会会長　礒貝昭男氏が、第 74 回愛知県表彰と第 17 回(令和４年度)日本スポーツグランプリを受賞。

１６時４０分議長が閉会を宣言した。

上記議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、出席した代表理事および監事が記名押印する。

２０２２年１２月３日

議事録署名人
公益社団法人日本ライフル射撃協会

議長・代表理事	松　丸　喜　一　郎	松丸喜一郎　印
代表理事	田　村　恒　彦	田村恒彦　印
代表理事	袴　田　登　喜　造	袴田登喜造　印
代表理事	横　山　幸　子	横山幸子　印
監事	香　西　俊　輔	香西俊輔　印
監事	岸　髙　　清	岸髙清　印

以上